
■早稲田大学レジリエンス研究所

第 6 回原子力政策・福島復興シンポジウム

「東日本大震災と福島原発事故から 6 年～原子力政策と福島復興の今後のあり方を考える～」

ご案内

早稲田大学は、レジリエンス研究所主催「第 6 回原子力政策・福島復興シンポジウム：東日本大震災と福島原発事故から 6 年～原子力政策と福島復興の今後のあり方を考える～」を、2017 年 3 月 7 日（火）午後、13 時 30 分より早稲田大学早稲田キャンパス（19 号館）にて開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

【本シンポジウムの目的】

東日本大震災・福島原発事故から 2017 年 3 月 11 日で 6 年を迎えます。早稲田大学は、2011 年 5 月に東日本大震災復興研究拠点を設立し、早稲田大学の知的共同体としての叡智を結集し、被災地復興に貢献すべく研究を行ってまいりました。

本シンポジウムでは、「フクシマの教訓」をふまえた今後の原子力政策のあり方について、特にバックエンド問題（高レベル放射性廃棄物の地層処分問題）に焦点を当てて議論します。また、東日本大震災・福島原発事故からの復興に取り組む福島県の状況と今後の課題について、福島浜通り地域からの参加者とシンポジウム参加者を交えて議論したいと考えています。

【開催概要】

-
- ・ 日 時：2017 年 3 月 7 日（火） 13：30～17：30（受付開始：13:00）
 - ・ 場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 19 号館（早稲田大学西早稲田ビル）7 階・710 教室
<http://web.waseda.jp/gsaps/access/>
 - ・ 定 員：60 名（先着順・無料）
 - ・ 申込・問い合わせ先：メールにてお申込み、お問い合わせ下さい。
【宛先】 jyuten-fukkou※list.waseda.jp（※を@（半角）にして送信ください）
【件名】 シンポジウム申込
【内容】 1. 氏名（フリガナ） 2. ご所属 3. メールアドレス
 - ・ 主 催：早稲田大学レジリエンス研究所
<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/index.html>
 - ・ 後 援：早稲田大学アジア太平洋研究センター、早稲田大学総合研究機構
※本シンポジウムは早稲田大学総合研究機構からの助成を受け開催します。
-

■プログラム ※プログラムは都合により変更になる可能性があります。

MC：岩田優子（早稲田大学アジア太平洋研究科・博士課程）

【基調報告 13:30-14:00】

松岡俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授・研究代表者）

「東日本大震災・福島原発事故から 6 年：フクシマの教訓と今後の原子力政策・福島復興のあり方」

【第 1 部 14:00-15:15】

フクシマの教訓をふまえた原子力政策の今後のあり方を考える

モデレーター：師岡慎一（早稲田大学理工学術院・特任教授）

報告 1

勝田忠広（明治大学法学部・准教授）

「福島原発事故後の原子力政策の課題と展望」

報告 2

中川 唯（東京工業大学大学院社会理工学研究科・博士課程）

「福島原発事故の教訓と原子力安全規制・バックエンド問題」

討論者 1：黒川哲志（早稲田大学社会科学総合学術院・教授）

討論者 2：山下竜一（北海道大学大学院法学研究科・教授）

討論

【休憩 15:15-15:30】

【第2部 15:30-17:20】

福島復興のこれから：福島から日本の地域社会の持続可能な「かたち」を考える

モデレーター：勝田正文（早稲田大学環境・エネルギー研究科長・教授）

報告 1

遠藤 智（福島県広野町・町長）

「今後の福島復興のあり方を広野町の経験から考える」

報告 2

菅波香織（未来会議事務局長・弁護士、福島県いわき市）

「未来会議の考える福島浜通りの未来」

報告 3

大手信人（京都大学大学院情報学研究科・教授）

「福島の森林生態系内の放射性物質と地域復興」

報告 4

森口祐一（東京大学大学院工学系研究科・教授）

「福島の放射能汚染と地域復興」

討論者 1：島村守彦（いわきおてんと SUN 企業組合・事務局長）

討論者 2：遠藤義之（観陽亭代表、いわき地区広域自治会「さくらの会」事務局）

討論者 3：友成真一（早稲田大学環境・エネルギー研究科・教授）

討論

【閉会挨拶 17:20-17:30】

松岡俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授・研究代表者）